

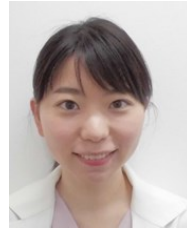


皮膚科スタッフ紹介



平成17年
佐賀大学 卒業
・日本皮膚科学会 認定皮膚科専門医
・日本乾癬学会
・日本皮膚免疫アレルギー学会
・日本脊椎関節炎学会

鶴田 紀子 *Noriko Tsuruta*



平成27年
福岡大学 卒業

麻生 麻里子 *Mariko Asou*

当科で取り扱う 主な疾患

- 皮膚疾患全般 ■ 皮膚腫瘍の診断・手術
- 重症の乾癬、難治性アトピー性皮膚炎や蕁麻疹に対する生物学的製剤治療
- 尋常性白斑や掌蹠膿疱症に対する紫外線照射療法

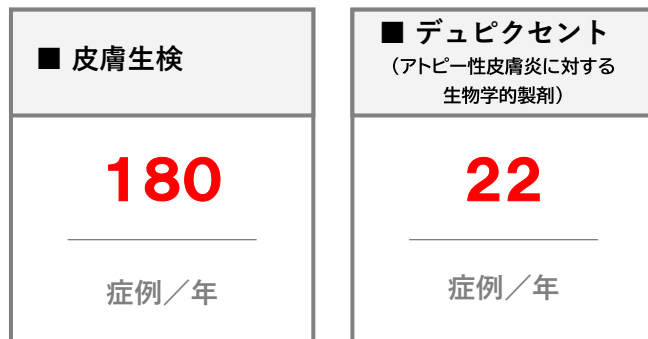
皮膚に関するトラブルは、お気軽にご相談ください。

当科の紹介

皮膚科で大切なのは、「視診」をしっかりと行うことだと考えています。当科では、基本となる問診および視診を十分に行い、必要に応じて皮膚生検や血液検査、画像検査などの各種検査を提案し、なるべく正確な診断が得られるように努力しています。

また、必要に応じて院内（時に院外）の他科の医師と緊密に連携し、質の高い医療を行っていくことを心がけています。難治性アトピー性皮膚炎に対しては、標準治療（ステロイド外用、保湿剤外用、抗アレルギー剤内服）に加えて生物学的製剤（デュピクセント）の投与も行っています。

数字でみる主な診療実績



2021年から日本皮膚科学会より **乾癬** に対する「生物学的製剤使用承認施設」として認定されました。

内服・外用療法や光線療法などの治療で十分な効果がみられない患者さんには「生物学的製剤」が用いられます。

生物学的製剤治療は、2010年から行われるようになった治療法で、乾癬の症状が出ている部位に対し、炎症にかかわるたんぱく質（サイトカイン）の働きをピンポイントで抑えて症状を改善します。他の治療方法に比べて乾癬の皮膚症状に対する効果が

高く、加えて関節症状にも効果があります。現在使用できる生物学的製剤にはいくつかの種類があり、治療効果、投与方法、投与間隔、治療費などが異なります。例えば、投与方法には点滴（静脈注射）と皮下注射があります。皮下注射のなかには医療機関で指導を受けると自宅で患者さん自身が行う（自己注射）ことができるものもあります。

